

地区名：上庄地区

実施主体：上庄地区各種団体連絡協議会

1 基本データ

- 地区人口 3,667人（H31.1.1現在）
- 世帯数 1,061世帯
- 行政区数 32行政区
- 地区面積 約262.3平方キロメートル
- 地区の沿革

上庄地区は、市街地南部に位置し、日本百名山の1つ荒島岳のふもとで、東西約6^{キロメートル}、南北約12^{キロメートル}ほどの広さを有している。地域は、一級河川の真名川と清滝川が作り出した扇状地形で、稲作とサトイモの生産が盛んな農村地区となっている。



2 現状と課題

地区の特性として、学校区が当地区と同じであり、保育園、幼稚園、小学校、中学校がそれぞれ1園（校）ずつであること、また、以前JAが単独で存続していたことなどから他地区にはない地域の特異性や地域の繋がりがあり、郷土愛も強い。

しかしながら、人口の微減、少子高齢化は同地区も少しずつ進んできており、各集落の活力や地域全体の活力も停滞化してきている。

こうしたことから、平成24年度から、当地区では、地域住民自らが地域を今一度見つめ直し、地区の伝承や文化を再認識しその価値と魅力を高めようと、地域の活性化や賑わいづくりに繋がるような事業に取り組むこととし、麻那姫伝説継承事業等に取り組んでいる。

平成24年度は麻那姫音頭の復活や麻那姫像の展示庫設置に取り組み、平成25年度は、麻那姫感謝祭の開催をはじめ、伝説の紙芝居作成、また、ヨサコイ麻那姫の作成など、麻那姫伝説に纏わる多様な事業に取り組み、地区住民への周知と継承の意識付けを図った。平成26年度は、この麻那姫伝説継承事業を継続し、地域の賑わいと区民の絆を深め、地域の活性化を図るため、麻那姫感謝祭の継続や麻那姫街道の案内看板設置などに取り組んだ。平成27年度は麻那姫感謝祭やスポーツ等のイベントを更に盛大とするため、キャラクター「まなちゃん」の着ぐるみやスポーツ横断幕を整備した。平成28年度はキャラクター入りのハッピー等を購入・着用し、麻那姫感謝祭の踊りの輪を広げ、また、マスコットをデザインしたのぼりを購入し、今後、各種スポーツイベントを盛り上げた。さらに、麻那姫広場に土を盛り、シバザクラを植栽するなど、地域の賑わいの創出に寄与した。29年度は麻那姫音頭の普及を進めるため、上庄踊り振興会を立ち上げた。また、地区内外から人を呼び込み、地域をさらに活性化していくため、上庄地区の史跡である小山城跡地（通称・城山）に遊歩道を設置した。

3 平成30年度の事業内容

麻那姫伝説継承事業は、平成29年度で6年目となり、地区住民には、定着しつつあり、各種広報により伝説の周知などが図れた。

今年度は、国体と開催時期が重なったため、

麻那姫感謝祭の開催は見送ったが、上庄地区の史跡である小山城跡地の遊歩道等の設置は、引き続き実施した。

昨年度同様、各種団体連絡協議会や実行委員会を立ち上げ、以下の事業に取り組んだ。

(1) 麻那姫伝説の寸劇・児童絵画展

開催日：9月17日（月）

参加者：476人



麻那姫伝説の寸劇のもよう

麻那姫伝説を後世に継承し、麻那姫の遺徳を讃え、秋の収穫に感謝するため、6年目となる麻那姫伝説の寸劇を敬老会の中で実施した。

また、上庄小学校に依頼し、2年生を対象に麻那姫伝説を題材とした絵画を募った。募った作品の全ての作品を実行委員等が集まり審し、優れた作品を表彰した。



(2) 麻那姫音頭の普及

平成29年度に立ち上げた上庄踊り振興会が踊りの講習会を開いた。その後、上庄夏まつりにおいて、この会の先導により、麻那姫音頭の輪を広げ、音頭の普及に努めた。



麻那姫音頭の普及

(3) まなちゃん（麻那姫）の知名度の向上

マスコットの着ぐるみ・まなちゃんを、様々なイベントに参加させることで、麻那姫及びその伝説を広く知ってもらった。一例としては、恒例となる保育園児によるマラソン大会の応援に駆け付けた。



まなちゃん（ゆるキャラ）の地域活動

(4) 小山城跡地の遊歩道整備

上庄地区には史跡である小山城跡地（通称・城山）があり、これを地域の資源として生かすため、平成29年度から遊歩道や案内看板の設置に取り組んでいる。30年度も延長し、整備を行った。



小山城跡地の案内看板設置



地域づくり講演会

(5) 麻那姫の横断幕等によるスポーツ振興

子どもたちに愛される麻那姫の意匠入りの横断幕やパンチングバルーンにより、各種スポーツイベントを盛り上げた。上庄地区は、スポーツが盛んな地区であり、上庄地区壮年団体連絡協議会等による結の故郷親善スポーツ大会や、上庄小学校の麻那姫マラソン大会などで活用した。



横断幕等によるスポーツ振興

(6) 地域づくり講演会による意識の向上

地区住民の意識の向上を図るため、外部から講師を招き、講演会を開催した。他県の状況やこれからの地域づくりの動向を把握し、地域振興を考える機会を提供することができた。

4 平成30年度の事業成果

7年間継続して麻那姫伝説継承事業に取り組んだことで、上庄地区に住んでいながら麻那姫伝説を知らなかった人も、事業の意義と伝説を継承していくという意識付けを図ることができた。また、各種イベントにおいてもキャラクターを用いた着ぐるみやバルーンなどを活用し、麻那姫伝説のさらなる周知が図れた。

年間を通じて麻那姫伝説を継承することで、地区の子どもからお年寄りまでが関わりを持ち、触れることができ、地元上庄を愛する気持ちと誇りに思う意識が芽生えたのではないかとと思われる。

5 今後の展望

今後は、子どもたちが上庄地区に愛着を持ち、将来はこの地に住み続けたいとなるような事業を、これからも地区住民が協力し実施していけるよう地域内の各界各層の団体が連携し取り組んでいきたい。